

中野香織さん(出身)が「性とスーツ」翻訳

中野香織さん



緊迫した性的駆け引き、衣服制作をめぐる社会的・技術的背景などを巧みに絡めとりながらファンションを論じてい る。歴史家の著者は、男性の体の形にぴったり合わせて造った鎧が十八世紀に誕生したスーツの原形であり、鎧の持つ五 体の美しさと同じように性的

男性のスーツは、サラリ―魅力を感じさせるという。

富山市出身の中野香織さん
(三五) 東京大学非常勤講師、
横浜市青葉区が「性とスリ
ツ 現代衣服が形づくられる
まで」(アン・ホランダー著)
を翻訳し、白水社から出版さ
れてる。

ショーンの歴史をたどり、衣服にひそむメッセージを読み解いている。服飾文化史の中で軽視されてきた男性のスーツを「セクシーな芸術作品である」と再評価するユニークな内容だ。

衣服はメツセーリ
冷徹な美術鑑定家の目

のに、性的エネルギーが潜んでいる」と言つ。西洋ファッションをリードし続けたのは男性服である。女性服は修飾性が高く、上半円。た。衣服は視点を変えて見ることで、さまざまなメッセージを語りかけてくる」と話す。四六判、二八五頁、二千八百円。

ヤケット、ベストの多くが、
女物としてデザインされた表
情豊かな変種へと幅を広げ始
めている。

中野さんは一著者は序説にて
どうわれば、冷徹な美術鑑定
家の目でアッションを論じ
た。衣服は視点を変えて見る
ことで、さまざまナメッセー
ジを語りかけてくると話す。
四六判、二八五頁、一千八百
円。

A movie poster for 'Sex and Suits'. The title is at the top right in English and Japanese. A large red triangle in the center contains the Japanese title '性とスーツ' (Sei to Suits). Below the triangle is the subtitle '現代衣服が射し出されるまで' (Until modern clothing reveals itself). The background shows a man in a suit and a woman in lingerie.

「性とスイツ」の表紙

中野さんは富山市吳平富田町の出身で、西洋近代文学やヨーロッパの地域文化、ファンション史などを研究している。英国ケンブリッジ大客員研究員だった一九九四年秋、アメリカ文学翻訳者の柴田元幸氏の紹介で翻訳に取り組み、三年がかりで仕上げた。

アーティカ文学翻訳者の柴田幸氏の紹介で翻訳に取り組み、三年がかりで仕上げた。テイラード・スースの発展の歴史を女性服と密接に関連づけ、時代の美意識や男女のマンの退屈な「どぶねずみ服」といったイメージがある。だが、ニューヨーク人文科学研究所の特別研究員を務める美

中野さんはあとがきで、著者の提言も分かりやすくまとめてある。

自分史大賞 作品を募集

に限る。

応募は自分史三冊と内容の
あらましを八百字以内にまと
め、住所、職業、氏名、生年
月日、電話番号を明記して三
月三十一日まで、〒408-1

見せる同時に表現し、衣服 身むきだし、下半身を厚いスカートで覆う。アーチを感ずせる「カット」や「二つ分裂」

ところに魅力が生じるという定番理論がある。中野さんは「セクシーな原形を損なわず」と、た形のまま固執したが、男性を模倣することで近代化された。

大才

文化